令和　　年度　個人カリキュラム・記録（毎月）

（参考資料7－1）（記入例）

施設長	主任	担任

児童名	
生年月日	令和　　年　　月　　日 生

「ねらい」に対する子どもの様子や保育士の関わりなど保育の過程を記録する。必要に応じて日付等を記録する。

	ねらい（養護・教育）	記録（生活面・あそび・家庭との連携など）	自己評価
4月	・体調に気をつけながら、健康的に過ごせるようにする。 ・本児の好きな車などのあそびを楽しむ。	・4/5～4/7　発熱のため欠席。 ・上旬、保護者と離れる時に激しく泣くが、しばらくすると好きな車で保育士と遊ぶ。 ・4/22　春キャベツの和え物を口には入れるが、味が苦手なのか、食感が苦手なのか口から出していた。	保育時間が長くなったばかりの頃は疲れが見られることもあったが、午後の活動に配慮したり、家庭と連携することで健康に過ごした。ふれあいあそびの時間を大切にしながら楽しい気持ちに共感し、好きな車の遊びの他にも興味や関心を把握して、一緒に楽しむ機会を多く取り入れていく。
5月	・生活リズムを整え安心して健康に過ごせるようにする。 ・保育士と一緒にふれあい遊びをしたり戸外で春の草花や風を感じるなど自然に触れることを楽しむ。	・連休明け頃から、食欲が増し完食する日が多くなった。 ・散歩先の公園で、青っぽい小石をたくさん見つけては拾って、保育士や友達に見せたり渡したりする。体力がついて、散歩の帰りにも目に見えるものに興味を示すなど、歩くことを楽しめるようになってきた。	登園時間が早くなり、生活リズムが変わったことで、疲れが見られたので、体調の変化に注意しつつ休息をしっかりとるようにした。散歩の途中、道端に咲く花や、てんとう虫などの昆虫を見つけてはしゃぐ姿が見られたので、嬉しい気持ちに共感するよう務めたのはよかった。
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

ねらいは、養護と教育の視点をもって設定する。
○「養護」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わり。
○「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である。

保育のねらいと記録を通して自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、環境構成や子どもに対する援助について改善に努める。

※ けがや病気等、出席簿や保健日誌等に記載がある内容は、特段記載の必要はないが、必要に応じて記録することは問題ない。